

道の必要性がますます痛感されてきました。

昭和五年町会議員の中津市水道施設の見学、大分市水道課長の来佐、昭和六年大分市水道部長の来佐、水源池調査とすすん、いよいよ昭和七年四月六日の町会で、二年継続の上水道工事施工が、満場一致で議決されました。給水人口二万人を目標に、水源池と野岡村上段屋へ現在上岡又一本松へ求め、配水池と城山(西谷又杉谷)に置き、昭和八年八月二十一日通水を開始しました。その祝賀式は、佐伯小学校の校庭で花々しく挙行されました。

水源池から浄水場に導かれた水を、配水池から需用家度に送水する、特望の都市上水道が完成しました。町内鉄管敷設総延長二万八千メートル、防火栓百二十二個、総工費二十三万円。

町民は、火災、伝染病の恐ろしさから、やへと開放されました。

昭和十年には、佐伯東尋常小学校が創立されるほど、いわゆる佐伯東地区は膨張し、引続き太平洋戦争、敗戦そして戦後の混乱期も終わり、産業都市へと転換した佐伯市にとっては、異国人絹パルプ佐伯工場建設は朗報であり、そのため上水道の拡張、普及は、緊急な課題となりました。

昭和二十八年、いよいよ、第一期拡張工事に着手しました。その後、旧市街部ほどまっていた配水区域を、全市に広げるため、第二、第三、第四と拡張工事が続行され、今日に至っています。

昭和四十八年四月、離島のため水不足に悩んでいた大入島にも、野岡山給水施設を利用し、海底に送水管を敷設する工事で、大入島全域への配水が完了しました。これらで、まとめたのが次の表です。

上水道敷設工事沿革

工事名	施工期	工費	箇所	要
新設工事	昭和七年	二三五	第一配水池(西谷)城山利用	
第一期拡張工事	二八一三〇	九五六六	第二配水池(西谷)城山利用	
旧海軍給水施設譲受	三七	一	野岡山(現在濃霞山公園)	
第二期拡張工事	三九一四三	二二九七	第三配水池(中野)城山利用	
第三期拡張工事	四四一四六	六一三五	四号井戸新設(上岡)	
第四期拡張工事	四六一四八	六八〇〇	第三配水池(坂/浦峠)	

この外に、戸穴に八幡配水池、波越に堅田上水場が設けられています。

昭和八年以来、四十五年余の歳月が流れましたが、その間水源取水井八ヶ所、配水池六ヶ所、浄水池二ヶ所への設備投資は、びく大な額にのぼり、その維持管理も大変なことだと思えます。

現在の佐伯市上水道の給水能力は、左の通りです。

- 一日最大給水量 三三、五五〇 m³
- 一日一人最大給水量 六一〇 l
- 一日平均給水量 二九、一五〇 m³
- 一日一人平均給水量 五三〇 l
- 給水人口 五五、〇〇〇人

佐伯広域市町村圏域には、一級河川吾匠川水系に属する、その他たぐさんの中小河川と、豊富な地下水があり、一方、年間降雨量は一五〇〇ないし二、〇〇〇 mm で、水源には恵まれています。

しかし、生活用水(家庭用)農業用水、工業用水等の需要は、ますます増大することが予想され、水資源の確保は、今後大きな研究課題となることでしょう。